

第 14 回多国籍企業学会全国大会（2022 年 6 月 25 日）

統一論題報告「米中対立とプラットフォーム」

筑波大学ビジネスサイエンス系 立本博文

本報告では、まず、プラットフォームビジネスの変遷について紹介し、その後、米中のプラットフォーム企業について説明を行う。その後、今後の展望についての報告を行う。

プラットフォームビジネスの重要性の指摘は、1990 年代のコンピュータ産業にさかのぼる。当時、コンピュータ産業では、垂直統合的な産業構造から、水平分業型の産業構造への転換が行われていた。このような新しい産業環境をエコシステムとよび、その中で、競争力や産業進化の観点から、特に重要視されたビジネス形態がプラットフォームビジネスである。プラットフォームビジネスは国際分業（とくに新興国の産業のキャッチアップ）と結びつくことで、自社の競争力を拡大するとともに、グローバルな市場の産業進化の方向を決定していった。これら第 1 世代のプラットフォームビジネスは、オープンな領域での協業を重視するため、イノベーションプラットフォームと呼ばれた。

2000 年代にはいると、第 2 世代のプラットフォームビジネスがインターネットを基盤に台頭した。これらはトランザクションプラットフォームとよばれ、サイド 1（消費者/ユーザー）とサイド 2（商品提供者/企業）を結びつける（マッチング）というサービスを展開した。伝統的にはマッチングは、商品数が多くなると、機能しなくなることが知られている。ユーザーが商品を認知できなくなるからである。ところが、トランザクションプラットフォーム企業は、データと AI を用いることで、マッチング確率を大幅に向上させ、ロングテール市場とよばれる、従来活用できなかった潜在市場を活性化させていった。このような第 2 世代プラットフォーム企業は、世界的にインターネットが普及することで、各国で誕生した。米国では GAF A、中国では BATH とよばれるようなテックジャイアント企業となり、大きな影響力を持つようになった。

2017 年～今日、さらに新しい第 3 世代プラットフォーム企業の業態が生まれつつある。これらは、伝統的な産業にデータ技術と AI を持ち込むことで誕生している。伝統的な産業は、熟練人手が必要なタスクが存在することが多く、スケールしない（＝海外展開困難）ことが多い。ところが、熟練人手を AI で代替することで、スケールする（海外展開できる）ようになることが多い。これら第 3 世代のプラットフォームは、いまのところ、サービス業で観察され、産業の特定レイヤーを中心に急激に拡大するため、プラットフォーム企業として成立しているように見える。

以上紹介したプラットフォームビジネスは、半導体、データ、AI などのデジタル技術に依存している。このため、米国と中国は、デジタル技術（や新興技術）を対象に輸出管理や投資規制を行っている。このため、新ブロック経済のような状況が発生している。インターネットによってグローバル市場が発生したことと逆行する動きであるが、年を経るごとに、この分断は大きくなっている。さらに、中国に関しては国家体制を堅牢にするために、SNS

や信用サービスなどへの規制を強めている。

展望として、中国の共同富裕政策への懸念が挙げられる。いままで紹介したプラットフォームビジネスは、すべて規模を拡大するために大量のリスクマネーを必要とする。リスクマネーの供給源は株式市場である。共同富裕政策はエマージングテクノロジー分野の企業活動を萎縮させ、株式市場へのリスクマネーの供給を阻害している。中国のテック企業にとって受難が続きそうである。

以上